

Oyama College		Year	2022		Course Title	Reaction Engineering	
Course Information							
Course Code		0017		Course Category		Specialized / Elective	
Class Format		Lecture		Credits		Academic Credit: 2	
Department		Advanced Course of Materials Chemistry and Bioengineering		Student Grade		Adv. 1st	
Term		First Semester		Classes per Week		2	
Textbook and/or Teaching Materials		草壁克己・増田隆夫著、「反応工学」三共出版					
Instructor		TANAKA Takakuni					
Course Objectives							
1. 化学反応の量論的關係に基づいて変化率と質量分率、モル分率、濃度、分圧の關係が説明できる。 2. 回分操作の基礎式が物質収支から記述でき、反応速度定数を求めると同時に、反応機構から速度式を導くことができる。							
Rubric							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		化学反応の量論的關係に基づいて変化率と質量分率、モル分率、濃度、分圧の關係が明確に説明できる。		化学反応の量論的關係に基づいて変化率と質量分率、モル分率、濃度、分圧の關係が説明できる。		化学反応の量論的關係に基づいて変化率と質量分率、モル分率、濃度、分圧の關係が説明できない。	
評価項目2		回分操作の基礎式が物質収支から記述でき、反応速度定数を正確に求めると同時に、反応機構から速度式を正確に導くことができる。		回分操作の基礎式が物質収支から記述でき、反応速度定数を求めると同時に、反応機構から速度式を導くことができる。		回分操作の基礎式が物質収支から記述でき、反応速度定数を求めると同時に、反応機構から速度式を導くことができない。	
Assigned Department Objectives							
JABEE (c) JABEE (C)							
Teaching Method							
Outline		移動速度論、反応速度論の基礎について学ぶ。講義はテキストを主とし、適宜資料を配布する。					
Style		講義と演習、課題を課す。 この科目は企業で化学反応プロセスの設計・開発を担当していた教員が、その経験を活かし、化学反応に関する反応操作や装置設計手法等について講義形式で授業を行うものである。 この科目は、学修単位科目のため、事前事後学習としてレポートを実施します。 ※R4年度は開講しない。					
Notice		中間試験、定期試験、提出物、および必要に応じて出題した課題によって評価する。試験は90分とし、関数電卓を必要とする。 中間試験45%、定期試験45%、自学自習レポート10%で評価する。 再試験は中間試験および定期試験でそれぞれ1回ずつ実施する。					
Characteristics of Class / Division in Learning							
☐ Active Learning		☐ Aided by ICT		☐ Applicable to Remote Class		☐ Instructor Professionally Experienced	
Course Plan							
			Theme		Goals		
1st Semester r	1st Quarter	1st	反応装置と反応操作：化学反応装置、反応装置の形式、反応装置内物質の流れ		理想流れ、非理想流れの装置の特徴を整理する		
		2nd	反応の量論的關係：単一反応と複数反応、回分/連続操作、質量/モル分率と変化率		反応例について原料成分の変化率と各成分のモル分率との關係式を求める手順をまとめる		
		3rd	反応の量論的關係：均一/不均一反応、濃度と分圧、変化率との関係、対原料モル比、演習問題		化学量論式に関して講義中に示す演習問題を解く		
		4th	反応速度の実測－静止法：回分操作の基礎式、反応速度の求め方、微分法		微分法による反応速度と速度定数の求め方を整理する。		
		5th	反応速度の実測－積分法、演習問題、反応速度の実測：押し出し流れ操作の基礎式、積分反応装置		反応速度式に関連した積分に関する演習問題を解く		
		6th	反応速度表現：反応速度の定義、均相内反応と界面反応、吸着、反応速度式、反応速度線図		量論式と各反応成分に注目した反応速度を明確に区別し可逆反応の場合の速度式も導けるよう復習する。		
		7th	反応の機構と速度式：量論式と速度式、中間化合物の擬定常状態、連鎖反応の速度		擬定常状態の意味や推定反応経路の素過程から速度式を導く手順を復習する。		
		8th	中間試験		これまでの範囲を試験する。		
	2nd Quarter	9th	反応の機構と速度式：量論式と速度式、中間化合物の擬定常状態、連鎖反応の速度		擬定常状態近似法と律速段階法による速度式の求め方を復習して演習問題を解く。		
		10th	等温回分操作の設計：単一反応の定密度系操作、基礎式、所要反応時間、数値積分法		物質収支から操作の基礎式を、積分して反応時間と成分濃度との關係式を得られることをまとめる。		
		11th	等温回分操作の設計：複数反応の定密度系操作、半回分操作、演習問題		逐次反応の定密度系回分操作と逐次並行反応の半回分操作の特徴を復習。演習問題を解く。		
		12th	等温押し出し流れ操作：液相反応系押し出し流れ操作、気相反応系押し出し流れ操作		押し出し流れ操作の基礎式、液相反応系・気相反応系操作式の積分形と計算例を復習する。		
		13th	完全混合流れ操作：操作の基礎式、多段操作、平均滞留時間、反応装置体積		完全混合流れ1段と2槽直列の場合の物質収支式、必要な装置体積の計算例を復習する。		
		14th	完全混合流れ操作：多段操作、自己触媒反応の連続操作、反応速度の実測、演習問題		1次反応操作の基礎式から整理し、相対値を確かめる。演習問題を解く		
		15th	総復習および演習問題解説		これまでの内容の総復習を演習形式で行う。		
		16th	定期試験		中間試験以降の範囲について試験する。		

Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	90	0	0	0	0	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	90	0	0	0	0	10	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0